

浜の活力再生プラン
(第2期)

1 地域水産業再生委員会〔ID 1126007〕

組織名	岡山県地域水産業再生委員会笠岡市地区部会
代表者名	部会長 井本 瀧雄

再生委員会の構成員	笠岡市漁業協同組合，大島美の浜漁業協同組合， 笠岡市産業部農政水産課
オブザーバー	岡山県農林水産部水産課，岡山県漁業協同組合連合会

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	<p>岡山県笠岡市（対象漁業者 128 名） （笠岡市漁業協同組合－101 名，大島美の浜漁業協同組合－27 名）</p> <p>○小型底びき網漁業が主－62 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型底びき網漁業専業（30 名） ・建網，さし網漁業と兼業（2 名） ・建網，点火ほこ突漁業と兼業（1 名） ・まきえ釣漁業と兼業（3 名） ・ノリ養殖漁業と兼業（1 名） ・さし網，建網漁業と兼業（3 名） ・さし網，建網，点火ほこ突漁業と兼業（3 名） ・さし網，建網，点火ほこ突，たこつぼ縄漁と兼業（2 名） ・さし網，建網，点火ほこ突，まきえ釣，きす漁と兼業（1 名） ・さし網，建網，点火ほこ突，ごち網，まきえ釣漁と兼業（1 名） ・たこつぼ縄漁業と兼業（2 名） ・たこつぼ縄，カキ養殖，建網漁業と兼業（1 名） ・たこつぼ縄，建網，さし網，まきえ釣漁業と兼業（1 名） ・さし網，つぼ網漁業と兼業（1 名） ・さし網，つぼ網，建網，ごち網漁業と兼業（1 名） ・さし網，つぼ網，たこつぼ網，建網，ごち網漁業と兼業（1 名） ・さし網，つぼ網，たこつぼ網，建網，袋待網，ごち網漁業と兼業（1 名） ・さし網，たこつぼ縄，点火ほこ突漁業と兼業（1 名） ・さし網，たこつぼ縄，建網漁業と兼業（2 名）
-----------------------	--

- ・さし網，たこつぼ縄，建網，ごち網漁業と兼業（1名）
- ・つぼ網，さし網，たこつぼ縄漁業と兼業（2名）
- ・つぼ網，さし網，たこつぼ縄漁業，建網と兼業（1名）

○つぼ網漁業が主－16名

- ・つぼ網漁業専業（8名）
- ・さし網漁業と兼業（2名）
- ・さし網，たこつぼ縄，建網漁業と兼業（1名）
- ・ノリ養殖漁業と兼業（1名）
- ・ノリ養殖，建網，げた刺し，たこつぼ縄漁業と兼業（1名）
- ・さし網，たこつぼ縄，建網漁業と兼業（1名）
- ・かに刺し漁業と兼業（1名）
- ・かき養殖，建網漁業と兼業（1名）

○さし網漁業が主－27名

- ・さし網漁業専業（2名）
- ・建網漁業と兼業（3名）
- ・建網，底びき漁業と兼業（1名）
- ・建網，底びき，たこつぼ縄，まきえ釣り，きす漁業と兼業（1名）
- ・建網，点火ほこ突漁業と兼業（1名）
- ・建網，点火ほこ突，太刀魚ひき釣り漁業と兼業（1名）
- ・つぼ網漁業と兼業（1名）
- ・つぼ網，建網，げた刺し，たこつぼ縄漁業と兼業（1名）
- ・つぼ網，建網，げた刺し，ごち網，たこつぼ縄，まながつお漁，いかかご，釣り筏漁業と兼業（1名）
- ・つぼ網，ノリ養殖，建網
- ・たこつぼ縄漁業と兼業（名）

○たこつぼ縄漁業が主－6名

- ・たこつぼ縄漁業専業（2名）
- ・かき養殖漁業と兼業（1名）
- ・建網漁業と兼業（2名）
- ・建網，点火ほこ突漁業と兼業（1名）

○ノリ養殖漁業が主－4名

	<ul style="list-style-type: none"> ・つぼ網漁業と兼業（1名） ・つぼ網，さし網，建網漁業と兼業（1名） ・つぼ網，さし網，たこつぼ縄，建網漁業と兼業（2名） <p>○カキ養殖漁業が主—5名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かき養殖漁業専業（1名） ・底びき網，つぼ網漁業と兼業（1名） ・底びき網，たこつぼ縄，建網漁業と兼業（1名） ・つぼ網，建網漁業と兼業（1名） ・つぼ網，たこつぼ縄，底びき網漁業と兼業（1名） <p>○漁船漁業の複合経営—0名</p> <p>（釣り，いかかご縄，かにかご縄，あなごかご縄，はえ縄， 点火ほこ突漁業など）</p> <p>（その他，大島美の浜漁協は組合自営事業としてアサリ養殖を行 っている）</p>
--	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地域は，岡山県の西南部に位置し，広島県との県境に面している。東は水島灘，西には釜灘を臨み，有人の7島を含む笠岡諸島周辺を主漁場としている。南北に長く島が連なり，瀬戸と灘の特徴を兼ね備えた好漁場であり，古くから漁業が盛んに営まれている。</p> <p>周辺海域の底質は泥域，砂礫域，岩礁域など様々である。また，沿岸域には干潟，砂泥域にはアマモ場，岩礁域にはガラモ場が形成されており，変化に富んだ海域特性に応じて多種の魚介類が生息している。現在，小型底びき網漁業，つぼ網漁業，さし網漁業，たこつぼ縄漁業など様々な漁船漁業が営まれているほか，ノリ養殖漁業，カキ養殖漁業が営まれている。</p> <p>漁船漁業で漁獲される魚種は，タコ類，エビ類，ヒラメ・カレイ類，カニ類，イカ類，マダイ等が多く，笠岡以外に福山，倉敷などの周辺地域に流通しているが，魚価が低迷するなど厳しい状況にある。また，カブトガニ保護区域を含む沿岸域の干拓・埋立により，アマモ場，ガラモ場，干潟の消失など漁場環境が変化し，漁獲量も減少傾向にある。</p> <p>ノリ養殖漁業は，栄養塩減少によるノリの色落ちや，販売価格の低迷などが原因し，養殖漁家が減少傾向にある。</p> <p>カキ養殖漁業は，波浪による筏破損を防ぐ静穏海域が少ないため，筏の設置台数が制限されており，県東部に比べて小規模な経営を余儀なくされている。</p> <p>漁協の正組合員数について，平成6年は326名，平成16年は263名，平成26年は143名となり，近年は減少が急速に進んでいる。</p>

その他、燃油高騰により増大する漁業操業コストや島からの輸送コスト削減対策に加え、漁獲物の鮮度維持・管理への取組、老朽化した施設の更新などの課題がある。

(2) その他の関連する現状等

笠岡市は、全ての産業で生産が減少傾向にあり、人口も減少し、高齢化率も高くなっており、かつて多くの住民が生活していた島しょ部は、特に人口減少、高齢化が急速に進んでいる。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

- 1 神経絞めによる販売価格向上とブランド化
- 2 直販による収入向上
- 3 先進的鮮度保持技術の活用による収入向上
- 4 干物商品の製造及び販売による収入向上
- 5 ノリ養殖漁場での栄養塩対策による品質維持・向上
- 6 アサリ資源の回復による収入向上
- 7 アマモ場造成による水産資源の増殖
- 8 種苗放流や資源管理への取組による水産資源の増殖
- 9 笠岡地区海洋牧場の管理及び活用による漁業生産量の増加
- 10 体験漁業等のイベントを通じた魚食普及や漁村活性化
- 11 老朽施設更新及び保全，給油施設の整備，漁港の整備や保全及び防災対策

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- 1 漁船漁業について
(担保措置：笠岡市漁業協同組合資源管理計画，大島美の浜漁業協同組合資源管理計画)
 - (1) 小型底びき網漁業について
 - ・毎週1日以上休漁する。
 - ・えびこぎ網（ビームこぎ）の袋網の目合を14節以上とする。
 - ・えびこぎ網（チェーンこぎ），えびけた網の袋網の目合を8節以上とする。
 - ・メイタガレイは，全長10cm以下を1日1隻当たり5尾を再放流する。
 - (2) つぼ網漁業について
 - ・9/1から9/30まで休漁する。（笠岡市漁協）
 - ・1/1から2/28まで休漁する。（大島美の浜漁協）
 - (3) 小型底びき網漁業，つぼ網漁業等について
 - ・魚種ごとに再放流サイズを定め，それ以下は再放流する。
ヒラメ：全長25cm，マダイ：全長14cm，クロダイ：全長15cm，メバル：全長12cm，マアナゴ：全長25cm，スズキ：全長15cm，ガザミ：全甲幅15cm，イシガニ：全甲幅5cm，シヤコ：全長10cm，マダコ：体重200g，トラフグ：全長10cm
 - ・抱卵ガザミ，軟甲ガザミは再放流する。
- 2 養殖漁業について（担保措置：岡山県ノリ養殖漁場改善計画，岡山県カキ養殖漁場改善計画）
 - ・ノリ養殖及びカキ養殖漁場改善計画を定め，適正養殖可能数量を遵守するとともに，漁場の適正利用に努める。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比 2.0%向上させる。

以降，以下の取組内容は，取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ，必要に応じて見直すこととする。

漁業収入向上のための取組	<p>1 現在，笠岡市漁協の約半数の漁船漁業者が，鮮度保持を目的としてマダイ，ヒラメ，スズキに神経絞めを施し，“神経絞め魚”を証明するタグを付けて出荷することで，魚市場，鮮魚店及び料理店から一定の評価を得ている。笠岡市漁協の漁船漁業者は出荷尾数の増加に努めるほか，他の漁船漁業者に神経絞め技術を教えて漁協内でのさらなる普及及び取組の継続を図り，“神経絞め魚”のブランド化を目指す。その中で，出荷先に対して評価や評判等の聞き取り調査を行い，改善点等があれば対応していく。</p> <p>また，今後，笠岡市地区全体での取組を目指し，大島美の浜漁協の漁船漁業者への共同実施を働きかけることを検討するとともに，神経絞めのみ傾向に傾倒することなく，新たな鮮度保持技術の習得にも意欲的に取り組んでいく。</p> <p>その他，笠岡市漁協は組合員からマダイ，ヒラメ，スズキ等を荷受けして量販店等に出荷しているが，近辺の量販店へ出荷する大型マダイや，水温の影響で活魚出荷できなくなる夏季に関西圏の量販店に出荷する大型魚について神経絞めを施した鮮魚の出荷を継続する。</p> <p>2 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は，笠岡市漁協が開設している“外浦朝市”，大島美の浜漁協本所で仲買業者が開設している“大島美の浜漁協朝市”，大島美の浜漁協美の浜支所の漁業者が開設している“瀬戸の市”の3ヶ所の朝市について，笠岡市と協力し市開催の“いちよう祭り”や“道の駅・笠岡ベイファーム”でPRチラシを配布するなど積極的に今後も宣伝活動を行い来客数や販売金額の増加につなげていく。</p> <p>また，備後圏域の沿岸4市（福山市，尾道市，三原市，笠岡市）の行政，関係漁業団体，道の駅などで構成する備後の地魚応援団の取組として，備後の漁師約1,000人によるアンケートで25種の季節の旬の魚を「備後フィッシュ」として選定している。備後の地魚の消費拡大に向けて，「備後フィッシュの食べられる店」も認定しており，今後は，認定店舗数の拡大や地元住民や若者に備後の地魚を食べてもらえるようPRを推進していく。</p> <p>3 笠岡市漁協のカキ養殖業者は，収入向上を目的として，殻付きカキについて，養殖カキの出荷がない夏季に，外食チェーン等への試験販売で高い評価を得ている。年によって生育状況・生産量に変動があるため，新たな販路の拡大やブランド化に取り組むなど，経営安定化に向けた努力を継続してい</p>
--------------	---

く。

また、笠岡市漁協の小型底びき網漁業者は、夏季に水揚げした後時間が経つと黒化して単価が下がるガラエビについて、新たな冷凍方式への転換あるいは冷水処理の効率的な活用などについて検討を進める必要がある。

4 笠岡市漁協は、漁業者の収入向上を目的として、大量に漁獲されるキスと市場価値が低いメゴチについて、民間会社に干物加工を依頼し、製造した商品に関西圏の量販店への試験販売を行った結果、課題となった魚体サイズや販売価格等の課題解決に向けて検討を進める。

5 笠岡市漁協のノリ養殖漁業者は、ノリの色落ち防止を目的に海中の栄養塩増加を図るため、周辺海域で行われる航路浚渫の時期について養殖時期である冬季に実施してもらうよう、引き続き県や市に働きかける。同時に、下水処理の緩和運転を働きかけるとともに、海底耕耘など自らが栄養塩を増加させる方法についても検討する。

その他、栄養塩が減少し、色落ちの兆候が見られ始めた時点で、早期に地区内で協議し、摘採を早めるほか、部分的にノリ網を撤去することで潮通しを良くし品質の維持に努め、収入の向上を図る。

6 大島美の浜漁協の漁業者は、アサリの増殖を目的として平成23年度に整備された人工干潟において、これまで漁場耕耘や被覆網の設置などを実施してきた結果、部分的には増殖につながったものの、抜本的な解決には至っていない。今後についても、県水産課や水産研究所の協力をはじめ、民間業者とも連携しながら、効果的な対策の検討・実施に努める。

7 アマモ場の再生をはじめとした、美しく豊かな海づくりを推進するため、平成28年度に笠岡地区漁業連絡協議会、岡山県、笠岡市、団体、企業等で美しく豊かな海づくりに関する協定を締結し、それぞれの活動及び役割を明確にし、協働の取組をすることについて申し合わせた。

以降、関係団体や地域住民とも連携し、6月にアマモの種取り、10月にはアマモの播種を行うとともに、環境整備の一環として、底びき網漁船による海底ごみの回収や浜辺の清掃活動を行っている。

今後も、アマモ場の再生、海ごみの回収、稚魚放流等の活動を行っていく予定としている。

8 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は、水産資源の増殖を図るため、ガザミ、ク

	<p>ルマエビ、オニオコゼ、ヨシエビの種苗放流や資源管理に取り組んでいる。今後、この取組を継続していくとともに、シタビラメや“笠岡市のさかな”であるシャコなど新たな放流用種苗の技術開発を県に継続要望する。</p> <p>9 笠岡市漁協と大島美の浜漁協の漁業者は、漁業生産量の増加を目的として、平成 13 年に増殖場としての人工魚礁投入や飼付型の種苗放流を行うことにより県が整備し、漁協が管理している白石島周辺の“笠岡地区海洋牧場”において、クロダイ、ヒラメ、マダイ、キジハタ、オニオコゼを放流している。これらに加え、新たに平成 25 年から漁獲量が減少傾向にあり高価格魚であるメバル稚魚の放流を開始した。これらの種苗放流を今後も継続することで、漁獲量の増加につなげる。</p> <p>10 笠岡市漁協白石島支所と大島美の浜漁協の漁業者は、それぞれ「親子ふれあい地引網」、「海辺の教室」を継続的に開催し、つぼ網等の漁業体験や、獲れたばかりの魚介類を海鮮バーベキューで味わってもらっている。</p> <p>今後は、後継者確保に向けた内容を加えながら実施し、参加者である子どもたちに漁業、漁村についての理解を深めてもらい、魚食普及の推進及び交流による漁村の活性化を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>船底清掃等の省燃油活動に取り組み、燃料費を基準年より 1%削減に努める。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○漁業者保証円滑化対策事業 ○もうかる漁業創設支援事業（沿岸漁業版） ○離島漁業新規就業者特別対策交付金 ○浜の活力再生交付金 ○漁業人材育成総合支援事業 ○生産海域等モニタリング体制整備事業 ○女性活躍のための実践活動支援事業 ○水産業革新的技術導入・安全対策推進事業 ○有害生物漁業被害防止総合対策事業 ○二枚貝資源緊急増殖対策事業 ○水産物供給基盤機能保全事業（公共） ○漁港施設機能強化事業（公共） ○再編整備等推進支援事業 ○水産多面的機能発揮対策事業 ○栽培漁業実践推進事業（県）

	○海洋牧場管理運営事業(県) ○水産物流通改善対策事業(市) ○都市漁村等交流推進事業(市)
--	--

2年目（平成32年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比4.0%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>1 現在、笠岡市漁協の約半数の漁船漁業者が、鮮度保持を目的としてマダイ、ヒラメ、スズキに神経絞めを施し、“神経絞め魚”を証明するタグを付けて出荷することで、魚市場、鮮魚店及び料理店から一定の評価を得ている。笠岡市漁協の漁船漁業者は出荷尾数の増加に努めるほか、他の漁船漁業者に神経絞め技術を教えて漁協内でのさらなる普及及び取組の継続を図り、“神経絞め魚”のブランド化を目指す。その中で、出荷先に対して評価や評判等の聞き取り調査を行い、改善点等があれば対応していく。</p> <p>また、今後、笠岡市地区全体での取組を目指し、大島美の浜漁協の漁船漁業者への共同実施を働きかけることを検討するとともに、神経絞めのみで傾倒することなく、新たな鮮度保持技術の習得にも意欲的に取り組んでいく。</p> <p>その他、笠岡市漁協は組合員からマダイ、ヒラメ、スズキ等を荷受けして量販店等に出荷しているが、近辺の量販店へ出荷する大型マダイや、水温の影響で活魚出荷できなくなる夏季に関西圏の量販店に出荷する大型魚について神経絞めを施した鮮魚の出荷を継続する。</p> <p>2 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は、笠岡市漁協が開設している“外浦朝市”，大島美の浜漁協本所で仲買業者が開設している“大島美の浜漁協朝市”，大島美の浜漁協美の浜支所の漁業者が開設している“瀬戸の市”の3ヶ所の朝市について、笠岡市と協力し市開催の“いちょう祭り”や“道の駅・笠岡ベイファーム”でPRチラシを配布するなど積極的に今後も宣伝活動を行い来客数や販売金額の増加につなげていく。</p> <p>また、備後圏域の沿岸4市（福山市、尾道市、三原市、笠岡市）の行政、関係漁業団体、道の駅などで構成する備後の地魚応援団の取組で選定した「備後フィッシュ」について、地魚の消費拡大に向けて、「備後フィッシュの食べられる店」認定店を核としたPRを行うとともに、各種イベントへの出展や漁協での直販とも連携し、地元住民や若者に備後の地魚のPRを推進していく。</p> <p>3 笠岡市漁協のカキ養殖業者は、収入向上を目的として、殻付きカキについ</p>
--------------	--

て、養殖カキの出荷がない夏季に、外食チェーン等への試験販売で高い評価を得ている。年によって生育状況・生産量に変動があるため、新たな販路の拡大やブランド化に取り組むなど、経営安定化に向けた努力を継続していく。

また、笠岡市漁協の小型底びき網漁業者は、夏季に水揚げした後に時間が経つと黒化して単価が下がるガラエビについて、新たな冷凍方式への転換あるいは冷水処理の効率的な活用などについて検討を進める必要がある。

4 笠岡市漁協は、漁業者の収入向上を目的として、大量に漁獲されるキスと市場価値が低いメゴチについて、民間会社に干物加工を依頼し、製造した商品を関西圏の量販店への試験販売を行った結果、課題となった魚体サイズや販売価格等の課題解決に向けて検討を進める。

5 笠岡市漁協のノリ養殖漁業者は、ノリの色落ち防止を目的に海中の栄養塩増加を図るため、周辺海域で行われる航路浚渫の時期について養殖時期である冬季に実施してもらうよう、引き続き県や市に働きかける。同時に、下水処理の緩和運転を働きかけるとともに、海底耕耘など自らが栄養塩を増加させる方法についても検討する。

その他、栄養塩が減少し、色落ちの兆候が見られ始めた時点で、早期に地区内で協議し、摘採を早めるほか、部分的にノリ網を撤去することで潮通しを良くし品質の維持に努め、収入の向上を図る。

6 大島美の浜漁協の漁業者は、アサリの増殖を目的として平成 23 年度に整備された人工干潟において、これまで漁場耕耘や被覆網の設置などを実施してきた結果、部分的には増殖につながったものの、抜本的な解決には至っていない。今後についても、県水産課や水産研究所の協力をはじめ、民間業者とも連携しながら、効果的な対策の検討・実施に努める。

7 アマモ場の再生をはじめとした、美しく豊かな海づくりを推進するため、平成 28 年度に笠岡地区漁業連絡協議会、岡山県、笠岡市、団体、企業等で美しく豊かな海づくりに関する協定を締結し、それぞれの活動及び役割を明確にし、協働の取組をすることについて申し合わせた。

以降、関係団体や地域住民とも連携し、6 月にアマモの種取り、10 月にはアマモの播種を行うとともに、環境整備の一環として、底びき網漁船による海底ごみの回収や浜辺の清掃活動を行っている。

今後も、アマモ場の再生、海ごみの回収、稚魚放流等を継続するとともに、

	<p>新たな協力者を増やししながら、取組の拡大を図っていく。</p> <p>8 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は、水産資源の増殖を図るため、ガザミ、クルマエビ、オニオコゼ、ヨシエビの種苗放流や資源管理に取り組んでいる。今後、この取組を継続していくとともに、シタビラメや“笠岡市のさかな”であるシャコなど新たな放流用種苗の技術開発を県に継続要望する。</p> <p>9 笠岡市漁協と大島美の浜漁協の漁業者は、漁業生産量の増加を目的として、平成13年に増殖場としての人工魚礁投入や飼付型の種苗放流を行うことにより県が整備し、漁協が管理している白石島周辺の“笠岡地区海洋牧場”において、クロダイ、ヒラメ、マダイ、キジハタ、オニオコゼを放流している。これらに加え、新たに平成25年から漁獲量が減少傾向にあり高価格魚であるメバル稚魚の放流を開始した。これらの種苗放流を今後も継続することで、漁獲量の増加につなげる。</p> <p>10 笠岡市漁協白石島支所と大島美の浜漁協の漁業者は、それぞれ「親子ふれあい地引網」、「海辺の教室」を継続的に開催し、つぼ網等の漁業体験や、獲れたばかりの魚介類を海鮮バーベキューで味わってもらっている。</p> <p>また、漁業者が主体となった漁業体験について検討を進めるとともに、後継者確保に向けた内容をブラッシュアップしつつ、参加者である子どもたちに漁業、漁村についての理解を深めてもらい、魚食普及の推進及び交流による漁村の活性化を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>船底清掃等の省燃油活動に取り組み、燃料費を基準年より1%削減に努める。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○漁業者保証円滑化対策事業 ○もうかる漁業創設支援事業（沿岸漁業版） ○離島漁業新規就業者特別対策交付金 ○浜の活力再生交付金 ○漁業人材育成総合支援事業 ○生産海域等モニタリング体制整備事業 ○女性活躍のための実践活動支援事業 ○水産業革新的技術導入・安全対策推進事業 ○有害生物漁業被害防止総合対策事業 ○二枚貝資源緊急増殖対策事業 ○水産物供給基盤機能保全事業（公共）

	<ul style="list-style-type: none"> ○漁港施設機能強化事業（公共） ○再編整備等推進支援事業 ○水産多面的機能発揮対策事業 ○栽培漁業実践推進事業(県) ○海洋牧場管理運営事業(県) ○水産物流通改善対策事業(市) ○都市漁村等交流推進事業(市)
--	---

3年目（平成33年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比6.0%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 現在，笠岡市漁協の約半数の漁船漁業者が，鮮度保持を目的としてマダイ，ヒラメ，スズキに神経絞めを施し，“神経絞め魚”を証明するタグを付けて出荷することで，魚市場，鮮魚店及び料理店から一定の評価を得ている。笠岡市漁協の漁船漁業者は出荷尾数の増加に努めるほか，他の漁船漁業者に神経絞め技術を教えて漁協内でのさらなる普及及び取組の継続を図り，“神経絞め魚”のブランド化を目指す。その中で，出荷先に対して評価や評判等の聞き取り調査を行い，改善点等があれば対応していく。</p> <p>また，今後，笠岡市地区全体での取組を目指し，大島美の浜漁協の漁船漁業者への共同実施を働きかけることを検討するとともに，神経絞めのみで傾倒することなく，新たな鮮度保持技術の習得にも意欲的に取り組んでいく。</p> <p>その他，笠岡市漁協は組合員からマダイ，ヒラメ，スズキ等を荷受けして量販店等に出荷しているが，近辺の量販店へ出荷する大型マダイや，水温の影響で活魚出荷できなくなる夏季に関西圏の量販店に出荷する大型魚について神経絞めを施した鮮魚の出荷を継続する。</p> <p>2 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は，笠岡市漁協が開設している“外浦朝市”，大島美の浜漁協本所で仲買業者が開設している“大島美の浜漁協朝市”，大島美の浜漁協美の浜支所の漁業者が開設している“瀬戸の市”の3ヶ所の朝市について，笠岡市と協力し市開催の“いちょう祭り”や“道の駅・笠岡ベイファーム”でPRチラシを配布するなど積極的に今後も宣伝活動を行い来客数や販売金額の増加につなげていく。</p> <p>また，道の駅・笠岡ベイファームでの笠岡産地魚の販売促進に向けて，関係者との検討を進める。</p> <p>さらに，備後圏域の沿岸4市（福山市，尾道市，三原市，笠岡市）の行政，関係漁業団体，道の駅などで構成する備後の地魚応援団の取組で選定した</p>
---------------------	---

「備後フィッシュ」について、地魚の消費拡大に向けて、「備後フィッシュの食べられる店」認定店を核としたPRを行うとともに、各種イベントへの出展や漁協での直販とも連携し、地元住民や若者に備後の地魚のPRを推進していく。

3 笠岡市漁協のカキ養殖業者は、収入向上を目的として、殻付きカキについて、養殖カキの出荷がない夏季に、外食チェーン等への試験販売で高い評価を得ている。年によって生育状況・生産量に変動があるため、新たな販路の拡大やブランド化に取り組むなど、経営安定化に向けた努力を継続していく。

また、笠岡市漁協の小型底びき網漁業者は、夏季に水揚げした後に時間が経つと黒化して単価が下がるガラエビについて、新たな冷凍方式への転換あるいは冷水処理の効率的な活用などについて検討を進める必要がある。

4 笠岡市漁協は、漁業者の収入向上を目的として、大量に漁獲されるキスと市場価値が低いメゴチについて、民間会社に干物加工を依頼し、製造した商品を関西圏の量販店への試験販売を行った結果、課題となった魚体サイズや販売価格等の課題解決に向けて検討を進める。

5 笠岡市漁協のノリ養殖漁業者は、ノリの色落ち防止を目的に海中の栄養塩増加を図るため、周辺海域で行われる航路浚渫の時期について養殖時期である冬季に実施してもらうよう、引き続き県や市に働きかける。同時に、下水処理の緩和運転を働きかけるとともに、海底耕耘など自らが栄養塩を増加させる方法についても検討する。

その他、栄養塩が減少し、色落ちの兆候が見られ始めた時点で、早期に地区内で協議し、摘採を早めるほか、部分的にノリ網を撤去することで潮通しを良くし品質の維持に努め、収入の向上を図る。

6 大島美の浜漁協の漁業者は、アサリの増殖を目的として平成23年度に整備された人工干潟において、これまで漁場耕耘や被覆網の設置などを実施してきた結果、部分的には増殖につながったものの、抜本的な解決には至っていない。今後についても、県水産課や水産研究所の協力をはじめ、民間業者とも連携しながら、効果的な対策の検討・実施に努める。

7 アマモ場の再生をはじめとした、美しく豊かな海づくりを推進するため、平成28年度に笠岡地区漁業連絡協議会、岡山県、笠岡市、団体、企業等で

	<p>美しく豊かな海づくりに関する協定を締結し、それぞれの活動及び役割を明確にし、協働の取組をすることについて申し合わせた。</p> <p>以降、関係団体や地域住民とも連携し、6月にアマモの種取り、10月にはアマモの播種を行うとともに、環境整備の一環として、底びき網漁船による海底ごみの回収や浜辺の清掃活動を行っている。</p> <p>今後も、アマモ場の再生、海ごみの回収、稚魚放流等を継続するとともに、新たな協力者を増やしながら、取組の拡大を図っていく。</p> <p>8 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は、水産資源の増殖を図るため、ガザミ、クルマエビ、オニオコゼ、ヨシエビの種苗放流や資源管理に取り組んでいる。今後、この取組を継続していくとともに、シタビラメや“笠岡市のさかな”であるシャコなど新たな放流用種苗の技術開発を県に継続要望する。</p> <p>9 笠岡市漁協と大島美の浜漁協の漁業者は、漁業生産量の増加を目的として、平成13年に増殖場としての人工魚礁投入や飼付型の種苗放流を行うことにより県が整備し、漁協が管理している白石島周辺の“笠岡地区海洋牧場”において、クロダイ、ヒラメ、マダイ、キジハタ、オニオコゼを放流している。これらに加え、新たに平成25年から漁獲量が減少傾向にあり高価格魚であるメバル稚魚の放流を開始した。これらの種苗放流を今後も継続することで、漁獲量の増加につなげる。</p> <p>また、老朽化しつつある音響給餌ブイの管理方針を検討する必要がある。</p> <p>10 笠岡市漁協白石島支所と大島美の浜漁協の漁業者は、それぞれ「親子ふれあい地引網」、「海辺の教室」を継続的に開催し、つば網等の漁業体験や、獲れたばかりの魚介類を海鮮バーベキューで味わってもらっている。</p> <p>また、漁業者が主体となった漁業体験について検討を進めるとともに、後継者確保に向けた内容をブラッシュアップしつつ、参加者である子どもたちに漁業、漁村についての理解を深めてもらい、魚食普及の推進及び交流による漁村の活性化を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>船底清掃等の省燃油活動に取り組み、燃料費を基準年より1%削減に努める。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○漁業者保証円滑化対策事業 ○もうかる漁業創設支援事業（沿岸漁業版） ○離島漁業新規就業者特別対策交付金 ○浜の活力再生交付金

	<ul style="list-style-type: none"> ○漁業人材育成総合支援事業 ○生産海域等モニタリング体制整備事業 ○女性活躍のための実践活動支援事業 ○水産業革新的技術導入・安全対策推進事業 ○有害生物漁業被害防止総合対策事業 ○二枚貝資源緊急増殖対策事業 ○水産物供給基盤機能保全事業（公共） ○漁港施設機能強化事業（公共） ○再編整備等推進支援事業 ○水産多面的機能発揮対策事業 ○栽培漁業実践推進事業(県) ○海洋牧場管理運営事業(県) ○水産物流通改善対策事業(市) ○都市漁村等交流推進事業(市)
--	--

4年目（平成34年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比8.0%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 現在、笠岡市漁協の約半数の漁船漁業者が、鮮度保持を目的としてマダイ、ヒラメ、スズキに神経絞めを施し、“神経絞め魚”を証明するタグを付けて出荷することで、魚市場、鮮魚店及び料理店から一定の評価を得ている。笠岡市漁協の漁船漁業者は出荷尾数の増加に努めるほか、他の漁船漁業者に神経絞め技術を教えて漁協内でのさらなる普及及び取組の継続を図り、“神経絞め魚”のブランド化を目指す。その中で、出荷先に対して評価や評判等の聞き取り調査を行い、改善点等があれば対応していく。</p> <p>また、今後、笠岡市地区全体での取組を目指し、大島美の浜漁協の漁船漁業者への共同実施を働きかけることを検討するとともに、神経絞めのみに傾倒することなく、新たな鮮度保持技術の習得にも意欲的に取り組んでいく。</p> <p>その他、笠岡市漁協は組合員からマダイ、ヒラメ、スズキ等を荷受けして量販店等に出荷しているが、近辺の量販店へ出荷する大型マダイや、水温の影響で活魚出荷できなくなる夏季に関西圏の量販店に出荷する大型魚について神経絞めを施した鮮魚の出荷を継続する。</p> <p>2 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は、笠岡市漁協が開設している“外浦朝市”，大島美の浜漁協本所で仲買業者が開設している“大島美の浜漁協朝市”，大</p>
---------------------	--

島美の浜漁協美の浜支所の漁業者が開設している“瀬戸の市”の3ヶ所の朝市について、笠岡市と協力し市開催の“いちよう祭り”や“道の駅・笠岡ベイファーム”でPRチラシを配布するなど積極的に今後も宣伝活動を行い来客数や販売金額の増加につなげていく。

また、道の駅・笠岡ベイファームでの笠岡産地魚の販売促進に向けて、関係者との検討を進める。

さらに、備後圏域の沿岸4市（福山市、尾道市、三原市、笠岡市）の行政、関係漁業団体、道の駅などで構成する備後の地魚応援団の取組で選定した「備後フィッシュ」について、地魚の消費拡大に向けて、「備後フィッシュの食べられる店」認定店舗数の拡大及び定着や地元住民や若者に備後の地魚を食べてもらえるようPRを推進していく。

- 3 笠岡市漁協のカキ養殖業者は、収入向上を目的として、殻付きカキについて、養殖カキの出荷がない夏季に、外食チェーン等への試験販売で高い評価を得ている。年によって生育状況・生産量に変動があるため、新たな販路の拡大やブランド化に取り組むなど、経営安定化に向けた努力を継続していく。

また、笠岡市漁協の小型底びき網漁業者は、夏季に水揚げした後に時間が経つと黒化して単価が下がるガラエビについて、新たな冷凍方式への転換あるいは冷水処理の効率的な活用などについて検討を進める必要がある。

さらに、魚価の向上を図るため、漁船への冷水装置の設置など、夏季における水揚げから出荷までの一貫した鮮度保持体制を検討する。

- 4 笠岡市漁協は、漁業者の収入向上を目的として、大量に漁獲されるキスと市場価値が低いメゴチについて、民間会社に干物加工を依頼し、製造した商品に関西圏の量販店への試験販売を行った結果、課題となった魚体サイズや販売価格等の課題解決に向けて検討を進める。

- 5 笠岡市漁協のノリ養殖漁業者は、ノリの色落ち防止を目的に海中の栄養塩増加を図るため、周辺海域で行われる航路浚渫の時期について養殖時期である冬季に実施してもらうよう、引き続き県や市に働きかける。同時に、下水処理の緩和運転を働きかけるとともに、海底耕耘など自らが栄養塩を増加させる方法についても検討する。

その他、栄養塩が減少し、色落ちの兆候が見られ始めた時点で、早期に地区内で協議し、摘採を早めるほか、部分的にノリ網を撤去することで潮通しを良くし品質の維持に努め、収入の向上を図る。

6 大島美の浜漁協の漁業者は、アサリの増殖を目的として平成 23 年度に整備された人工干潟において、これまで漁場耕耘や被覆網の設置などを実施してきた結果、部分的には増殖につながったものの、抜本的な解決には至っていない。今後についても、県水産課や水産研究所の協力をはじめ、民間業者とも連携しながら、効果的な対策の検討・実施に努める。

7 アマモ場の再生をはじめとした、美しく豊かな海づくりを推進するため、平成 28 年度に笠岡地区漁業連絡協議会、岡山県、笠岡市、団体、企業等で美しく豊かな海づくりに関する協定を締結し、それぞれの活動及び役割を明確にし、協働の取組をすることについて申し合わせた。

以降、関係団体や地域住民とも連携し、6 月にアマモの種取り、10 月にはアマモの播種を行うとともに、環境整備の一環として、底びき網漁船による海底ごみの回収や浜辺の清掃活動を行っている。

今後も、アマモ場の再生、海ごみの回収、稚魚放流等を継続するとともに、新たな協力者を増やしながら、取組の拡大を図っていく。

8 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は、水産資源の増殖を図るため、ガザミ、クルマエビ、オニオコゼ、ヨシエビの種苗放流や資源管理に取り組んでいる。今後、この取組を継続していくとともに、シタビラメや“笠岡市のさかな”であるシャコなど新たな放流用種苗の技術開発を県に継続要望する。

9 笠岡市漁協と大島美の浜漁協の漁業者は、漁業生産量の増加を目的として、平成 13 年に増殖場としての人工魚礁投入や飼付型の種苗放流を行うことにより県が整備し、漁協が管理している白石島周辺の“笠岡地区海洋牧場”において、クロダイ、ヒラメ、マダイ、キジハタ、オニオコゼを放流している。これらに加え、新たに平成 25 年から漁獲量が減少傾向にあり高価格魚であるメバル稚魚の放流を開始した。これらの種苗放流を今後も継続することで、漁獲量の増加につなげる。

また、老朽化しつつある音響給餌ブイの管理方針を検討する必要がある。

10 笠岡市漁協白石島支所と大島美の浜漁協の漁業者は、それぞれ「親子ふれあい地引網」、「海辺の教室」を継続的に開催し、つば網等の漁業体験や、獲れたばかりの魚介類を海鮮バーベキューで味わってもらっている。

また、漁業者が主体となった漁業体験について検討を進めるとともに、後継者確保に向けた内容をブラッシュアップしつつ、参加者である子どもた

	ちに漁業, 漁村についての理解を深めてもらい, 魚食普及の推進及び交流による漁村の活性化を図る。
漁業コスト削減のための取組	船底清掃等の省燃油活動に取り組み, 燃料費を基準年より 1%削減に努める。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ○漁業者保証円滑化対策事業 ○もうかる漁業創設支援事業 (沿岸漁業版) ○離島漁業新規就業者特別対策交付金 ○浜の活力再生交付金 ○漁業人材育成総合支援事業 ○生産海域等モニタリング体制整備事業 ○女性活躍のための実践活動支援事業 ○水産業革新的技術導入・安全対策推進事業 ○有害生物漁業被害防止総合対策事業 ○二枚貝資源緊急増殖対策事業 ○水産物供給基盤機能保全事業 (公共) ○漁港施設機能強化事業 (公共) ○再編整備等推進支援事業 ○水産多面的機能発揮対策事業 ○栽培漁業実践推進事業(県) ○海洋牧場管理運営事業(県) ○水産物流通改善対策事業(市) ○都市漁村等交流推進事業(市)

5年目 (平成35年度)

以下の取組により漁業所得を基準年対比 10.0%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>1 現在, 笠岡市漁協の約半数の漁船漁業者が, 鮮度保持を目的としてマダイ, ヒラメ, スズキに神経絞めを施し, “神経絞め魚”を証明するタグを付けて出荷することで, 魚市場, 鮮魚店及び料理店から一定の評価を得ている。笠岡市漁協の漁船漁業者は出荷尾数の増加に努めるほか, 他の漁船漁業者に神経絞め技術を教えて漁協内でのさらなる普及及び取組の継続を図り, “神経絞め魚”のブランド化を目指す。その中で, 出荷先に対して評価や評判等の聞き取り調査を行い, 改善点等があれば対応していく。</p> <p>また, 今後, 笠岡市地区全体での取組を目指し, 大島美の浜漁協の漁船漁業者への共同実施を働きかけることを検討するとともに, 神経絞めのみならず, 新たな鮮度保持技術の習得にも意欲的に取り組んでい</p>
--------------	---

く。

その他、笠岡市漁協は組合員からマダイ、ヒラメ、スズキ等を荷受けして量販店等に出荷しているが、近辺の量販店へ出荷する大型マダイや、水温の影響で活魚出荷できなくなる夏季に関西圏の量販店に出荷する大型魚について神経絞めを施した鮮魚の出荷を継続する。

- 2 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は、笠岡市漁協が開設している“外浦朝市”，大島美の浜漁協本所で仲買業者が開設している“大島美の浜漁協朝市”，大島美の浜漁協美の浜支所の漁業者が開設している“瀬戸の市”の3ヶ所の朝市について、笠岡市と協力し市開催の“いちよう祭り”や“道の駅・笠岡ベイファーム”でPRチラシを配布するなど積極的に今後も宣伝活動を行い来客数や販売金額の増加につなげていく。

また、道の駅・笠岡ベイファームでの笠岡産地魚の販売促進に向けて、関係者との検討を進める。

さらに、備後圏域の沿岸4市（福山市，尾道市，三原市，笠岡市）の行政、関係漁業団体，道の駅などで構成する備後の地魚応援団の取組で選定した「備後フィッシュ」について，地魚の消費拡大に向けて，「備後フィッシュの食べられる店」認定店舗数の拡大及び定着や地元住民や若者に備後の地魚を食べてもらえるようPRを推進していく。

- 3 笠岡市漁協のカキ養殖業者は，収入向上を目的として，殻付きカキについて，養殖カキの出荷がない夏季に，外食チェーン等への試験販売で高い評価を得ている。年によって生育状況・生産量に変動があるため，新たな販路の拡大やブランド化に取り組むなど，経営安定化に向けた努力を継続していく。

また，笠岡市漁協の小型底びき網漁業者は，夏季に水揚げした後に時間が経つと黒化して単価が下がるガラエビについて，新たな冷凍方式への転換あるいは冷水処理の効率的な活用などについて検討を進める必要がある。

さらに，魚価の向上を図るため，漁船への冷水装置の設置など，夏季における水揚げから出荷までの一貫した鮮度保持体制を検討する。

- 4 笠岡市漁協は，漁業者の収入向上を目的として，大量に漁獲されるキスと市場価値が低いメゴチについて，民間会社に干物加工を依頼し，製造した商品に関西圏の量販店への試験販売を行った結果，課題となった魚体サイズや販売価格等の課題解決に向けて検討を進める。

民間

5 笠岡市漁協のノリ養殖漁業者は、ノリの色落ち防止を目的に海中の栄養塩増加を図るため、周辺海域で行われる航路浚渫の時期について養殖時期である冬季に実施してもらうよう、引き続き県や市に働きかける。同時に、下水処理の緩和運転を働きかけるとともに、海底耕耘など自らが栄養塩を増加させる方法についても検討する。

その他、栄養塩が減少し、色落ちの兆候が見られ始めた時点で、早期に地区内で協議し、摘採を早めるほか、部分的にノリ網を撤去することで潮通しを良くし品質の維持に努め、収入の向上を図る。

6 大島美の浜漁協の漁業者は、アサリの増殖を目的として平成 23 年度に整備された人工干潟において、これまで漁場耕耘や被覆網の設置などを実施してきた結果、部分的には増殖につながったものの、抜本的な解決には至っていない。今後についても、県水産課や水産研究所の協力をはじめ、民間業者とも連携しながら、効果的な対策の検討・実施に努める。

7 アマモ場の再生をはじめとした、美しく豊かな海づくりを推進するため、平成 28 年度に笠岡地区漁業連絡協議会、岡山県、笠岡市、団体、企業等で美しく豊かな海づくりに関する協定を締結し、それぞれの活動及び役割を明確にし、協働の取組をすることについて申し合わせた。

以降、関係団体や地域住民とも連携し、6 月にアマモの種取り、10 月にはアマモの播種を行うとともに、環境整備の一環として、底びき網漁船による海底ごみの回収や浜辺の清掃活動を行っている。

アマモ場の再生、海ごみの回収、稚魚放流等について、活動エリアを拡大し、取り組んでいく。

8 笠岡市漁協と大島美の浜漁協は、水産資源の増殖を図るため、ガザミ、クルマエビ、オニオコゼ、ヨシエビの種苗放流や資源管理に取り組んでいる。今後、この取組を継続していくとともに、シタビラメや“笠岡市のさかな”であるシャコなど新たな放流用種苗の技術開発を県に継続要望する。

9 笠岡市漁協と大島美の浜漁協の漁業者は、漁業生産量の増加を目的として、平成 13 年に増殖場としての人工魚礁投入や飼付型の種苗放流を行うことにより県が整備し、漁協が管理している白石島周辺の“笠岡地区海洋牧場”において、クロダイ、ヒラメ、マダイ、キジハタ、オニオコゼを放流している。これらに加え、新たに平成 25 年から漁獲量が減少傾向にあり高価

	<p>格魚であるメバル稚魚の放流を開始した。これらの種苗放流を今後も継続することで、漁獲量の増加につなげる。</p> <p>また、老朽化しつつある音響給餌ブイの管理方針を検討する必要がある。</p> <p>10 笠岡市漁協白石島支所と大島美の浜漁協の漁業者は、それぞれ「親子ふれあい地引網」、「海辺の教室」を継続的に開催し、つぼ網等の漁業体験や、獲れたばかりの魚介類を海鮮バーベキューで味わってもらっている。</p> <p>また、漁業者が主体となった漁業体験について検討を進めるとともに、後継者確保に向けた内容をブラッシュアップしつつ、参加者である子どもたちに漁業、漁村についての理解を深めてもらい、魚食普及の推進及び交流による漁村の活性化を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>船底清掃等の省燃油活動に取り組み、燃料費を基準年より1%削減に努める。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○漁業者保証円滑化対策事業 ○もうかる漁業創設支援事業（沿岸漁業版） ○離島漁業新規就業者特別対策交付金 ○浜の活力再生交付金 ○漁業人材育成総合支援事業 ○生産海域等モニタリング体制整備事業 ○女性活躍のための実践活動支援事業 ○水産業革新的技術導入・安全対策推進事業 ○有害生物漁業被害防止総合対策事業 ○二枚貝資源緊急増殖対策事業 ○水産物供給基盤機能保全事業（公共） ○漁港施設機能強化事業（公共） ○再編整備等推進支援事業 ○水産多面的機能発揮対策事業 ○栽培漁業実践推進事業（県） ○海洋牧場管理運営事業（県） ○水産物流通改善対策事業（市） ○都市漁村等交流推進事業（市）

(5) 関係機関との連携

国の補助事業を積極的に活用し、行政（岡山県，笠岡市），系統団体（岡山県漁業協同組合連合会），地域団体（笠岡地区漁業連絡協議会）と緊密に連携し，漁業所得の向上を図る。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10.0%以上	基準年	平成 26-29 年度平均：
	目標年	平成 35 年度：

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

神経絞めを実施する漁業者数の増加	基準年	平成 30 年度： — (人) ※H30 年度末に記載
	目標年	平成 35 年度： 10%増加 (人)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

神経絞めを施した魚類（大半はマダイ）は市場価値が約 2～3 割増で取引がなされていることから、「神経絞めを実施する漁業者数」が所得向上に関連する指標として定める。

(※基準年の漁業者数は，本案策定作業時点では正確な数値が把握できないため，現在は空欄としている。平成 31 年 3 月末を目処に数値が確定する見込みである)

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業者保証円滑化対策事業	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な設備投資の促進を図るため、実質無担保・無保証人融資を支援するほか、認定漁業者を対象とした保証料負担を支援するもの。
もうかる漁業創設支援事業（沿岸漁業版）	<ul style="list-style-type: none"> 改革型漁船の収益性改善の実証事業は、省エネ、省人、省力化型の改革型漁船等新しい操業体制の収益性を実証することにより、地域・グループの漁業者の新しい操業体制への転換を促進しようとするもの。 燃油価格の高騰により採算が悪化している漁船の収益性回復の実証事業は、漁業用燃油使用量の10%以上の削減に加え、その他のコスト削減と付加価値向上の取組を併せて行うことにより、償却前利益を確保できる操業形態への転換を促進しようとするもの。
離島漁業新規就業者特別対策交付金	<ul style="list-style-type: none"> 漁業集落が漁協から借り受けた漁船や漁具等を、当該集落において独立して3年未満の新規漁業就業者に最長3年間貸付を行う際のリース料を当該集落に対し交付金によって支援するもの。
浜の活力再生交付金	<ul style="list-style-type: none"> 浜の活力再生プラン推進事業 漁業所得の向上による浜の活性化を目指す「浜の活力再生プラン」の着実な実行を支援するため、プランの見直しに関する活動に対して支援する。 水産業強化支援事業 浜の活力再生プランを上位計画として位置づけ、プランの取組に位置づけられた共同利用施設の整備プラン策定、地域における水産資源の管理・維持増大、漁港漁場の機能高度化や防災・減災対策に必要な整備等を支援する。
漁業人材育成総合支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 漁業就業促進情報提供事業 漁業就業希望者に対する就業情報の提供や就業相談会の開催等を支援する。 長期研修支援事業 新規就業者の定着促進のため、漁業現場での長期研修（最長3年間）を支援する。 経営・技術向上支援事業 若手漁業者の収益力向上のため、経営管理の知識や、熟練漁業者の持つ技術やノウハウの習得を支援する。
生産海域等モニタリング体制整備事業	<ul style="list-style-type: none"> 生産海域モニタリング業務 輸出先国の求める二枚貝の生産海域でのプランクトン検査及び貝

	毒検査等に係る費用を助成するもの。(対象となる二枚貝は、ホタテ及びカキ)
女性活躍のための実践活動支援事業	<p>漁村の女性や女性漁業者を中心に自主的な取り決めに基づき結成されたグループ、団体又は法人が実施する以下の取組について支援するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物を用いた加工品の開発，直売所や食堂の経営等に係る取組 ・水産物の消費拡大，魚食普及等に係る取組 ・高鮮度化，未利用資源活用等による漁獲物の付加価値向上に係る取組 ・漁獲物等の流通・販売の改善に係る取組 ・ブルーツーリズムや都市圏との交流等の漁村地域活性化に係る取組 ・漁業・養殖業の省力・省コスト化等による収益性改善の取組 ・資源の増殖・適切な管理，漁場環境保全に係る取組 ・新規就業者の確保・育成に係る取組 ・「浜の活力再生プラン」に基づき実施される所得向上のための取組
水産業革新的技術導入・安全対策推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ・省コスト・省力化技術導入実証事業 <p>漁労支出に占める燃油費等の支出割合を抑え，漁業経営を改善する省エネ・省コスト技術や，就業者不足や漁業従事者の高齢化に対応する省力化技術の円滑な導入のため漁業者等が行う実証試験等への支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全対策技術導入実証事業 <p>漁船特有の構造や操業状況，航行状況に起因する事故への対策として，安全性向上に資する転覆防止や衝突予防技術の導入に係る実証試験等への支援を行う。</p>
有害生物漁業被害防止総合対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・有害生物調査及び情報提供事業 ・有害生物被害軽減技術開発事業 ・有害生物被害軽減対策事業 ・有害生物利活用促進事業
二枚貝資源緊急増殖対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・二枚貝人工種苗生産技術開発事業 <p>タイラギ等人工種苗生産の技術が確立しておらず，天然採苗も難しい貝類を対象とした人工種苗の量産及び効果的な中間育成の技術開発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二枚貝増殖実証事業 <p>アサリ等について新たに開発された垂下式養殖の技術等を用いて，目的とする場所に，天然を上回る多量の幼生を発生させたり，稚貝</p>

	<p>を定着させること等により，効果的・効率的な増殖手法の実証化の取組を行う。</p>
<p>水産物供給基盤機能保全事業（公共）</p>	<p>効率的で効果的な漁港・漁場施設の更新を図るため，漁港・漁場施設の老朽化状況等の機能保全状況を調べる機能診断の実施及び機能診断結果に基づく機能保全計画の策定並びに機能保全計画に基づく漁港・漁場施設の保全工事を行う事業。または，インフラの集約・縮減に向け，漁港機能の集約化・再活用等を行うもの。</p>
<p>漁港施設機能強化事業（公共）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業活動の一層の活性化，漁業就労環境の改善及び生活環境の改善を図るために漁港整備を行う。 ・漁港施設の機能保全を行うために必要な機能保全計画の策定及び保全工事を行う。
<p>再編整備等推進支援事業</p>	<p>資源水準に見合った漁業体制の構築を推進するため「資源管理計画」に基づき漁業者が自主的に行う減船等を支援する。</p>
<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>	<p>環境・生態系の維持・回復や安心して活動できる海域の確保など，漁業者等が行う水産業・漁村の多面的機能の発揮に資する地域の活動を支援するもの。</p>
<p>栽培漁業実践推進事業（県）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・稚魚の中間育成事業の推進並びに魚類資源の維持管理に努め，稚魚放流事業を年次的に行い，漁家経営の安定に寄与する。
<p>海洋牧場管理運営事業（県）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・笠岡地区海洋牧場を適正に管理運営し，水産資源供給基地となるべく資源の保護，増殖を図り，笠岡市全体での漁業生産の増産につなげる。
<p>漁業振興特別対策事業（県）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業の振興と漁村地域の活性化を図るため，漁業協同組合に鮮度保持施設や加工場の設置を行う。
<p>水産物流通改善対策事業（市）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・笠岡市漁業協同組合荷捌き所での，集出荷体制の改善に必要な対策を着実に推進することで，魚価の向上及び漁家経営の安定化を図る。
<p>都市漁村等交流推進事業（市）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・笠岡の海での漁業体験を通じて，漁業や漁村についての正確な理解と水産資源及び漁場環境の保護，地産地消についての意識の醸成に資するとともに，漁村の活性化を図る。